

第6章 酸性雨調査結果

一般的に硫黄酸化物や窒素酸化物等の大気汚染物質の影響により、雨水のpH(水素イオン濃度)が5.6以下となった雨を酸性雨と呼ぶ。

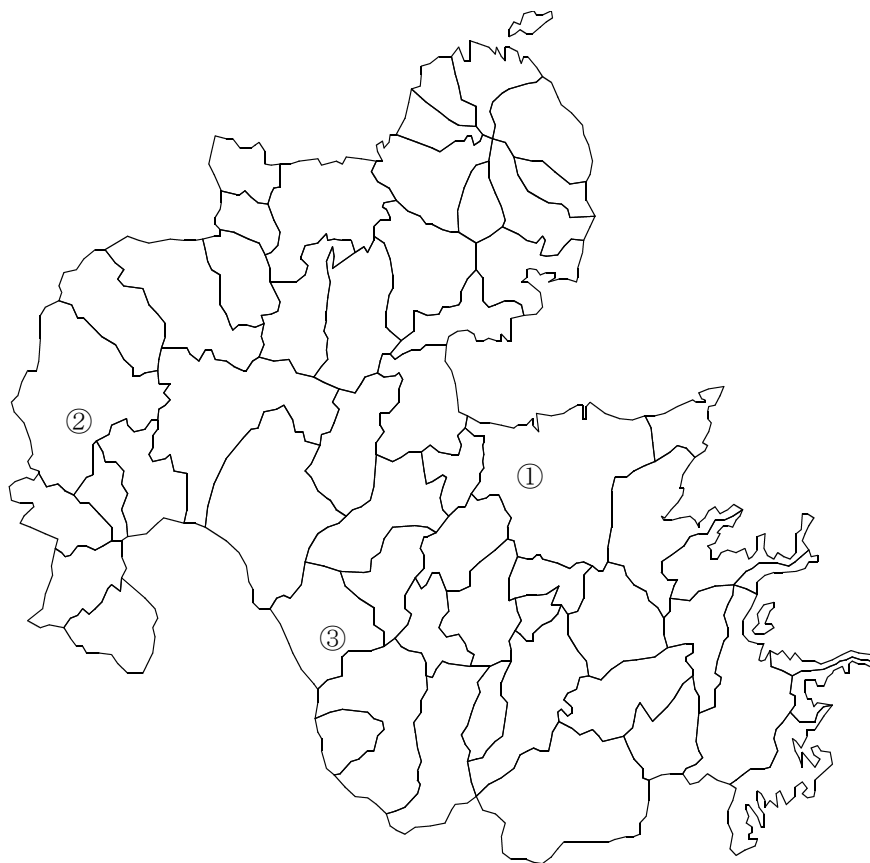
酸性雨は欧米を中心に土壌や河川、湖沼の酸性化による生態系の変化、森林の衰退等の問題を引き起こしている。

本県では、こうした現象は観測されていないが、県内における酸性雨の実態の把握と発生メカニズムの解析を目的として、昭和60年より調査をおこなっている。

〈調査地点・期間〉

調査地点：大分市、日田市、竹田市の計3地点

調査期間：平成17年4月～平成18年3月



番号	市町村	調査地点
①	大分市	県衛生環境研究センター
②	日田市	県林業試験場
③	竹田市	県畜産試験場

〈調査方法〉

ろ過式雨水採取装置により一週間及び二週間ごとの降水を採取し、pH計によりpHを測定する。

〈調査結果〉

各地点の平成17年度のpH年平均値は大分市で4.68、日田市で4.67、竹田市で4.63であり、全測定地点で酸性雨の目安であるpH5.6を下回っている。

各調査地点の雨水のpH年平均値の調査結果を表6-1に、経年変化を図6-2に示す。

過去5年間では、pH4.53~4.73の値で変動している。

表6-1 雨水のpH年平均値の調査結果

	H13	H14	H15	H16	H17
大分市	4.55	4.60	4.53	4.63	4.68
日田市	4.67	4.61	4.68	4.73	4.67
竹田市	4.70	4.67	4.56	4.65	4.63

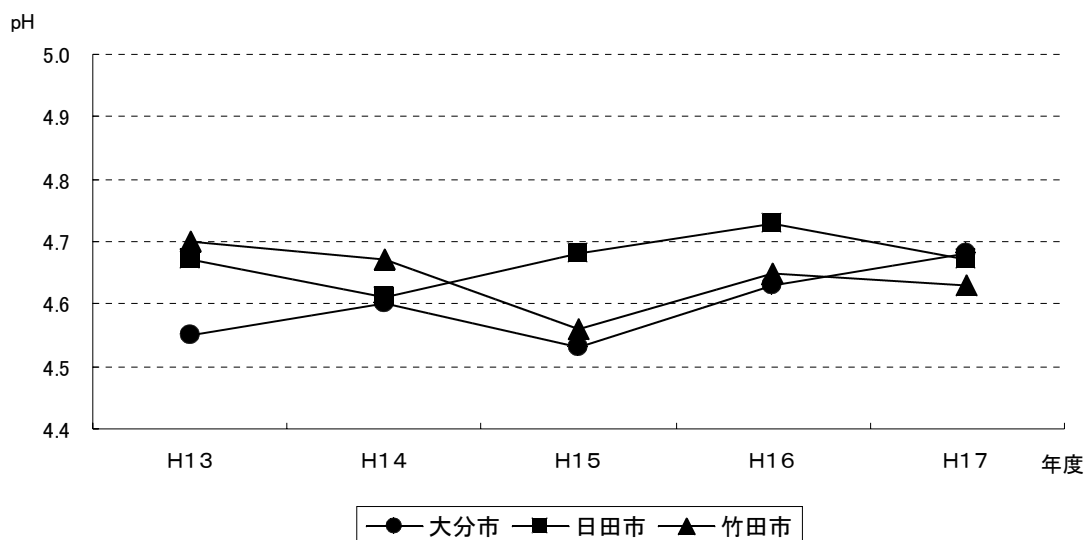


図6-2 雨水のpHの年平均値の経年変化

(参考) 全国の国設酸性雨測定所の調査状況

区分	平成15~16年度
最小値	4.40
最大値	5.04